

甲斐市立敷島北小学校 自己評価書

令和6年1月26日（金）作成

校長 増坪 広夫

記述者 職名 教頭 古屋 岳治

学校教育目標 「ともに学び とともに生きる 心豊かな子どもの育成」
・知育 … よく学び よく考える子ども（かしこい子）
・徳育 … 思いやりのある子ども（やさしい子）
・体育 … 健康でたくましい子ども（げんきな子）

学校経営方針 **基本：教師個々の資質・能力の向上と連帯と信頼による組織力の発揮**

- 1 全職員が常に学校目標を意識するとともに、めざす「子ども像」「学校像」「教師像」を念頭に置き、その具現化に向けた教育実践に取り組む。
- 2 明確なビジョンを持ち、目標に向かって確実な取り組みを展開する。
- 3 P D C Aサイクルを生かし、課題を明らかにして大胆な工夫や改善をしながら、より質の高い教育活動を構築する。
- 4 意欲的に研修・研究に取り組み、専門職としての資質能力の向上に努める。
⇒常に学び続け、向上心を持つ教師でありたい。
- 5 特色ある学校づくり、信頼される学校づくりの実践に努める。

1 全体評価

- ・学校経営方針に基づき、教育目標の実現に向けて具体的な取り組みについて提案し、一人一人の教職員がそれぞれの職務を遂行してきたことにより、本校の自己評価・児童及び保護者アンケートの結果は概ね良好な水準にあるといえる。また、それぞれの学年経営方針に基づいた学年目標が設定され、その実現に向けて適切な学年・学級経営が行われていると考えられる。
- ・学習指導については、全体的に肯定的な評価が多く、児童の様子を把握しながら対話的で深い学びによる個別最適な授業を行い確かな学力の定着を図っている。また、児童の学びへ向かう力を育て、資料の配信、回収、集計など I C T を日常的な学習ツールとして効果的な活用が進んでいる。
- ・いじめや不登校等の生徒指導上の問題については、教職員が児童と積極的なコミュニケーションをとり、家庭と連携した早期対策をしていることが高い評価につながっている。
- ・本校の特徴である「北小タイム」という業前タイムが計画的に行われたことが、全職員が協働して児童が活躍して達成感を感じることができる行事や国語力向上、体力づくりにつながり、自己評価、保護者アンケートとも高く評価されている。また、地域の人材や保護者、施設や団体との連携では、学習機会や安全がしっかりと確保されていることが、自己評価・児童及び保護者アンケートの結果での高い評価につながっている。

2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）	
I 学校教育目標に関して・学校経営について	
達成状況	・学校教育目標や学校経営について、自己評価全項目において肯定的な意見が100%となり、職員は高い意識をもって職務にあたり主体的に学校運営に参画している。これは校長の学校経営方針の下、教職員が共通認識をもって学校教育目標達成に向けた教育活動が行われ、一定の成果を得ているという実感があるものと考えられる。 ・学習活動や教育活動の実施にあたり意義や目的を評価し、より質の高い教育活動を作っていこうという意識が教職員の中に育ってきていることが分かる。
改善策	・諸行事、諸活動が、学校経営方針に合致した方法や内容になっているか職員会議等を通して全職員で確認し、教職員の組織的・協働的な取り組みにより教育活動を推進していく。 ・カリキュラムマネジメントについての全職員の理解を更に深め、行事や活動ごとの振り返りを確実に実施し、課題を改善して次の教育活動に生かしていくようにする。
II 学校運営について（保護者用アンケート等も含めて）	
達成状況	・全体的に肯定的な評価が多く、特に「協働的体制で教育活動にあたる」の項目ではA評価が83%と高く、日頃から「報告、連絡、相談、確認」をしっかりと行い、他の教職員と連携して学校運営に主体的に関わっている教職員が多いことが分かる。また、「校務支援システムを十分活用できている」の項目もA評価が高く、業務を効率化し働き方を改善していこうとする意識が職員に浸透してきている。 ・保護者アンケートでは、日頃から教職員が保護者への連絡を迅速に行っていることや地域、保護者と連携した行事を心がけ、児童の様子をお便りやホームページなどで発信していることにより、情報発信がしっかりされていることが分かる。学校運営に関する項目では、「学校（学年・学級）だより、ホームページなどから教育活動の様子を知ることができる」が95%、「学校は、保護者・地域住民からの声に耳を傾けている」が83%、「授業参観や学校開放日などは、子どもの様子を知る機会になっている」がほぼ100%と肯定的な意見が昨年度より更に高い水準となっている。
改善策	・異常気象や地震等に備えた対策や学校事故に対する防止対策などを意識した「危機管理マニュアル」の見直しと充実を図っていく。また、教職員に対する「危機管理マニュアル」の周知や訓練を的確に行うとともに、日々の教育活動においても初期対応を意識させ、災害時や事故防止に生かせるようにしていく。 ・PDCAサイクルにより各分掌の職務内容に見直しを行い、効果的な教育活動を推進するとともに、業務の効率化を図る。
III 学習指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）	
達成状況	・教職員が高い意識を持ち、児童の学びの意欲を喚起し、確かな学力の定着に向け積極的に取り組んでいることがうかがえる。 ・児童アンケートでは、肯定的な意見として「学校の授業は楽しい」が89%、「国語の授業が分かる」が93%、「外国語の授業が好き」が82%と高く、児童の意欲や基礎基本の定着に生かされていることが分かる。また、保護者アンケートにおいても、「学校は熱心に授業に取り組んでいる」の肯定意見が95%と高く、教職員の頑張りが児童の様子や

	お便り、授業参観などの学校行事を通して保護者にしっかり伝わっている。 ・今年度、甲斐市ＩＣＴ教育推進事業校の指定を受け、全職員がＩＣＴを効果的に活用し児童が主役になる授業づくりを目指してきた。アンケートでは、「児童生徒の学びの意欲を喚起する授業を行っている」のＡ評価が７５％と高く、職員が日々自身の資質向上に向け努力していることがうかがえる。また、「宿題や家庭学習に対する指導を行っている」のＡ評価も７２％と高く、家庭と連携して児童に確かな学力をつけさせようと強い意識を持って教育活動に取り組んでいることが分かる。
改善策	・校内研究を中心とし、基礎・基本の定着と対話的な深い学びのできる授業づくりを目指しＩＣＴを効果的に活用していく。 ・指導と評価の一体化の意義を全職員で共有し、児童にどんな力をつけるための授業かを明確にした授業づくりを進められるようにしていく。
Ⅳ 生徒指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）	
達成状況	・日頃から休み時間、校庭や教室で児童と楽しく遊んだり話をしたりする教職員の姿や児童と一緒に掃除をする教職員の姿が多く見られ、児童と十分なコミュニケーションが取れていることが分かる。アンケートでも「児童生徒理解のためにコミュニケーションを図っている」のＡ評価が８６％と高い水準にある。 ・「いじめ、不登校等の早期発見・早期対応ができて」「日頃から家庭と連携が図れるように努めている」のＡ評価がともに７３％と高く、職員が日常的に係わっている「いじめ、不登校等の生徒指導上の問題」に対して家庭への連絡や訪問などを行い、家庭と連携して迅速に対応をしていることがうかがえる。これらの日頃の対応により、不登校児童は非常に少なく、本校では不登校傾向にあった児童が登校できるようになるなど改善傾向がみられた。さらに、小学生アンケートでは「困ったことがあったら、相談できる先生がいる」が８４％と高い水準にあり、教職員と児童の良好な関係が作られていることが分かる。保護者アンケートにおいても「学校は、子どもの間違った行動に対して、指導している」が８６％、「お子さんのことで、相談できる先生がいる」が８２％と肯定意見が多くなってきている。信頼される学校を目指し、教職員が児童との積極的なコミュニケーションを心がけ、様々な生徒指導上の問題に対して、保護者と連携して迅速に適切な対応をしていることがうかがえる。
改善策	・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、子育て支援課など外部機関と積極的に連携し、だれひとり取り残さず全校児童が楽しい学校生活を送れるように、きめ細かな支援を行っていく。 ・気持ちのよいあいさつができる児童が多くいるが、学校の内外を問わず目と目をあわせられるあいさつができる児童を増やしていく。
Ⅴ 地域との連携について	
達成状況	・敷島北小学校では、校外学習以外にも、１年の「敷島保育園との交流会」「昔の遊び集会」「焼き芋」、２年の「野菜づくり」「地域探検」、３年の「自転車教室」、４年の「福祉講話と体験」「篆刻体験」、５年の「米づくり」、６年の「人権教室」など、外部人材を活用した地域と連携・協働した学びの機会を数多く実施している。お便りやホームページにおいても児童の様子を発信し、保護者や地域の方々に学校の教育活動の様子が伝わるように心がけてきた。また、児童の登下校の安全を守るために、地域見守り隊や帰り道ふれあい事業に関わる多くの地域の方に御協力いただいている。今回のアンケートにおいても、

	すべての項目で肯定的な意見が多数あり、特に「学校は、学校の教育活動について、お便りやホームページを通して保護者や地域に広報している」ではA評価が86%、「学校は、地域・保護者と連携し、児童生徒の安全確保に努めている」が82%と学校への関心が高くなってきていることがうかがえる。 ・年間を通して、保護者や地域との連携と学校の様子を伝える情報発信に心がけてきたことにより、保護者アンケートでは「学校は、保護者・地域住民からの声に耳を傾けていると思う」のA評価が83%と高い水準になっている。
改善策	・今年度の連携を土台にして、地域の人や団体、施設との連携・活用を積極的に行い、児童の安全確保や学習活動の充実を図っていく。 ・学校評価をもとに、学校評議委員会や関係者評価委員会などで出された意見を学校運営の改善に生かしていく。
VI 学校の特色に関して	
達成状況	・この一年間、全職員が協働して児童が活躍し達成感を感じることができる学校行事や充実した教育活動に励んできた。アンケートの「学校や児童会の行事に、児童が進んで取り組むよう指導している」では、肯定意見が100%となり、保護者アンケートでも「学校は学校行事や児童会行事に力を入れて取り組んでいると思う。」が91%と高水準となっている。これらのことから、よりよい学校行事への取り組みが保護者に伝わり評価されていることが分かる。 ・業前タイムでは「読書」「国語の学習タイム」「北小タイム」などが年間を通して計画的に行われ、読書活動の推進や長縄・ドッジビーによる体力づくりなどに取り組んだ。
改善策	・たてわり活動を中心とした児童会行事「北小まつり」や感謝の気持ちを伝える「感謝の木」などの活動を充実させ、自分や友だちのよさに気づき、仲間と協力してコミュニケーションを深める力を伸ばしていく。 ・毎日の業前タイムを授業として確実に活用し、読書や運動の習慣化、学力の基礎基本の習得につなげて行く。
VII 創甲斐教育について	
達成状況	・読書活動については、業前での読書習慣を作る読書活動に加え、読書週間の取り組みや学習及び休み時間での図書室の積極的な活用に、図書館司書・図書主任と担任が連携して取り組んできた。アンケートでは「児童が積極的に読書活動に取り組むよう、指導に努めている」の高い肯定意見につながり、小学生アンケートでも、78%の児童が「本を読むのが好き」と答えている。また、読書や業前タイムでの基礎基本の定着を図る国語学習タイムを続けていることから、93%の児童が「国語の授業の内容が分かる」と答えている。 ・体力向上・健康指導については、体育主任を中心に県教育委員会主催の体力アップ事業に参加し、ドッジラリーや長縄跳び、ドッジビー大会を開催し、児童が体を動かすことに親しむ機会を増やしてきた。また、水泳や跳び箱運動などでは、「いきいき人材事業」を活用して、外部の専門性を持った講師による質の高い授業を行い、児童の体力と技能の向上に取り組んできた。これらの取り組みにより、「児童の体力向上や健康指導に努めている」の肯定意見が100%と高い水準になっている。また、小学生アンケートでは、76%の児童が「休み時間も外に出て遊んでいる」と答えており、体力づくりを目指した運動の習慣化が進んでいる。

改善策	・体力向上への取り組みについては、体力アップ事業に継続して参加し、たてわり遊びや北小タイムを通して児童が体を動かすことのよさを味わえるようにする。また、いきいき人材活用事業を通して、児童の技能と教師の指導力の向上を図り、休み時間などに体を動かして遊ぶ児童を増やしていく。 ・学校経営方針を全職員で共有し、児童が「考え議論する道徳」を推進し、日常的な生活習慣の中で児童の道徳性の育成に取り組んでいく。
３ まとめ ＜成 果＞ ・学校経営方針、学校教育目標を全職員が理解し、その目標の具現化のための協働的な取り組みにより学校運営が適切に行われている。 ・校長のリーダーシップのもと他の教職員とコミュニケーションを取りながら、協働して日々の教育活動が行われ生徒指導上の問題などに家庭と連携した迅速な対応ができています。 ・甲斐市のG I G Aスクール構想に基づき、発達段階に応じたI C Tを効果的に活用した授業改善や職員の働き方改革が推進している。 ・きめ細かい教職員の指導や保護者の協力により、児童の自尊感情が高まり、多くの児童が落ち着いた学校生活を送れる環境をつくってきている。 ・おやじの会等の地域の協力により地域の人材や施設が、各学年の学習や活動において積極的に活用され教育効果を上げている。 ・児童の登下校では、地域見守り隊や帰り道ふれあい事業など、地域人材の活用と協力により安全確保が図られている。 ・学校ホームページやお便り、メール等による学校からの情報発信により、学校教育活動への保護者や地域の理解が図られている。 ・学校、家庭、地域が良好な関係を築き、連携・協力のもと学校教育目標実現に向けた学校教育活動が推進されている。 ・創甲斐教育の趣旨を教職員が理解し、国語力の向上、運動習慣づくりに意欲的に取り組んでいる。 ＜課 題＞ ・カリキュラムマネジメントについて全職員が理解を深め、P D C Aサイクルによる教育活動を推進していく。 ・災害や学校事故に的確に対処できるように、危機管理マニュアルの更新及び適切な運用を目指す。 ・各教科の学習や活動を通して、授業で児童に身につけさせたい力を明確にした授業づくりに努め、指導と評価の一体化を図る。 ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、子育て支援課等と連携してきめ細かい支援や生徒指導上の教育課題の解決にあたる。 ・学校内外において、気持ちのよい挨拶ができる児童を育成していく。 ・P D C Aサイクルの効果的な運用や業務の優先順位を考え、取捨選択するなどメリハリのある働き方を意識し実行することで働き方改革を推進する。	